

今なお残る市民の足

「渡し船」

私たち順造選の事務所がある水都大阪には多数の河川や堀があり、昔は人々の往來のための渡船場が各所にありました。陸路の交通が発達し、その数は減りましたが現在も重要な交通手段として一部の地域に残る『渡し船』をご紹介します！

『渡し船』の歴史

渡船事業は江戸時代から始まり、当時は世襲の家業とされ有料で営まれていたそうです。明治の末期になると大阪市の『請負経営』となり、それまで各渡船場によってまちまちであった営業時間や料金体系の統一がはかられました。

その後大正9年の『道路法』の施行で、渡船が両岸を結ぶ道路の延長として扱われ無料化が実現しました。さらに昭和7年からは公共交通機関としての安全性向上と渡船労働者の労働環境改善のため、ほとんどの渡船場が『請負制度』から、市の『直営制度』へと改められました。

架橋進展に伴いその多くが廃止されましたが、現在でも8航路で運航されています。



天保山(てんぼうざん)渡船場

天保山大橋は自動車専用橋のため、歩行者・自転車の方は今でも渡し船を利用されています。海遊館(水族館)のある天保山とUSJ(ユニバーサルスタジオジャパン)のある対岸を結んでいるため、地元の方だけでなく、観光客やUSJのスタッフの乗船も多いそうです。1日平均1700人の利用があった昭和42年に比べ、現在では半数ほどに利用客は減少していますが、今も重要な交通手段として市民の方を支援しています。渡し船は15～30分間隔で運行されています。



天保山渡船場 渡し船乗船レポート



当日はポカポカ陽気で海も穏やかな渡し船日和!乗船中は方向によって全く違う景色が見られるため私は終始左右をキョロキョロ。
乗船してから岸に着くまではあっという間でしたが、大阪湾の開けた景色は開放的で気持ちよく、新鮮でした。対岸に着く直前には真近に見える天保山大橋に圧倒され、初の渡し船を満喫しました!

スタッフ小川



スタッフが実際に渡し船を体験してきました!



※イメージ

今回はお昼に訪れましたが、日没に合わせて乗船するとこのような綺麗な夕日が見れるそうですよ!
“大阪港で夕陽が一番美しい場所”と言われる天保山の「ダイヤモンドポイント」の夕日は有名ですが、ここは穴場かもしれません!

スタッフの旅日記



なぜか懐かしいハワイ
順造さんが「第二の故郷」と云われるハワイを訪れました。観光地も良いですが、のどかな集落では昔多くの日本人が移民してきた歴史を感じ、初めて来たのに不思議と懐かしさがありました。

スタッフ 森下

